

2004年12月
2005年1月

合併号

Enfanter

No.299

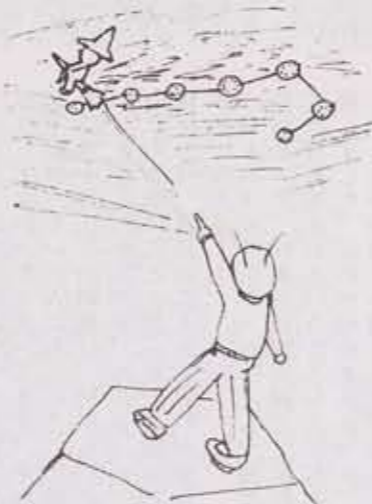
あんふぁんて

Enfanterとはフランス語で

①子を産む ②(計画などを)考え出す ③(作品などを)創り出す、の意

今年の五月の連休前から登校できなくなり
家からも自分の部屋からも出なくなつた
ケータイの電源も切つていた
朝がくるのが怖いから眠りたくない
明け方まで起き 朝の賑わいが過ぎると
やっとな眠れる日を繰り返す辛さを耐え
夏休みが始まると 躁転換した

あの子は 私の自慢の娘
あの子は 私に生きる力を与えてくれる
あの子のテーマは「楽しく生きる」だつた
なのに、いつからだろう？
友達に気を遣い
自分の心を閉じ込めるようになったのは…
楽しい事は話してくれるのに
辛い事は話さなければ存在しないとも
思っているかのように黙っていた



鬱状態の苦しさは もう繰り返したくないと
精神科を受診することも 受け入れた
私には 歯科に掛かると大差ない意識だが
本人には 厳しい現実だつたようだ
あんふぁんての会員からも
「脳の分泌のコントロールがちょっと
不安定なだけだから・・・」との言葉を聞き
娘にも伝えた
今は躁状態も落ち着き 睡眠薬なしでもOK
《ひとりて 頑張つて 疲れきる》つて
子育ての時の私みたい
あの時「私たちが私たちで育てよう」と
自主保育を知り 参加し 楽しかった
自分の苦しさを 言葉にして 人に伝える
これが大切ね
ありがとう あんふぁんて

詩 篠原
イラスト 西宮

30周年スペシャル

「あんふぁんて 私の場合」

p 6

・会員交流会報告—その2

・あんふぁんてのお金のこと

・あんふぁんてからあんふぁんてへ

・情報コーナー

p 15
p 14
p 12
p 2

会員交流会報告—その2

*8月25日(木)に池袋で行われた交流会。話し合いの様子や参加者自己紹介、当日の決定事項などについてはすでに前号で報告したので、今回は、参加者の感想と、当日までに寄せられた会員の意見の一部を紹介します。

「参加者の感想から」

会員と直に会えて、とても嬉しかったです

豊島区

私にとって初めて参加した交流会でしたが、これが最後の交流会になるかもしれないというちょっとさみしい状態で始まりでした。でも、これまで会報で何度も名前をお見かけした方や、お話だけ聴いたことがある方などとの新しい出会いも楽しみに、長女(1歳)を連れて「エポック10」へ。あんふぁんての行事には保育をちゃんとしてくれてるのが、いつもながら嬉しいところです。おかげさまで、安心して交流会を楽しむことができました。

これからの存亡をかけた話し合いを楽しむとは、多少不謹慎ではありますが、自己紹介やこれまでの経緯、そして一人一人の関わり方や考え方を丁寧に聴くことができ、また

会議室が一杯になるほどの会員にお会いできて、私としてはとてもいい時間をすごせたと思っています。

交流会の細かい報告はすでに298号でされていますので省きますが、会を通してとても強く感じたことがあります。それは、そこに参加した会員の誰もが抱いていた、このままあんふぁんてをまったくのゼロにすることはもったいない!という思いです。そして、これまで我が身を犠牲にがんばってくださった川崎さんをはじめとする事務局の方たちへの感謝の気持ち。これまでのように誰かまかせではもう先へは進めないことを確認した上で、私にできることとして、何人かの方は新しい提案もしてくださり、どうにかつながっていくのかなあ、そうあってほしいなあ、というところまででした。

4歳と1歳の子育て中の私は、「はいできます!」とはとても言えませんでした。そのことを申し訳なく思いつつですが、交流会に参加してよかったと思えます。それは、会報で繋がっていた人たちとこうして直に会って話をすることの刺激は、何にも代え難いものだと感じたからです。あんふぁんてに助けられた時期のことを語られた会員の話に耳を傾けた時、自分のこととも思いが重なって胸が熱くなりました。

あんふぁんてをきっかけとした個々の繋がりがあって、行事や会報を通じて広がってきて今日を迎えたということなんだなあ、実感しました。これからのあんふぁんて、こうしてその時の思いを綴ることなら私にもできるんだけどなあ、思っています。

ここで立ち止まらないで

新座市

当日、メモを書くのは面倒でテープを取り、結局まとめ記事を書いた。テープ起こしをしながら、参加者の声を何度も聞いた。

その、半分以上の人が「あんふぁんて」がなくなることを残念がっている。川崎・事務局18年は、実によくやった。私も皆さんと同じく彼女の事務能力や、社会認識、政治的なスタンスには敬服。だが、一人でやりすぎた。私たちが、やらなすぎた。と、今頃になって強烈に思う。15年前の時点でスタッフが有料、それも一人10万円(月額)を支給できる体制があれば、などと勝手に思った。子育て中のスタッフを支えるシステム作りがいまいちだったかなあとか。でもね、二年に一度くらいの編集参加。一年に一度の発送の手伝い。後は、あんふぁんてでできた友人と適当に遊んでいたわたしなのよ。卒業しそびれの万年留年会員のたわごとか?だが、立ち止まる「わたしら」ではない。

企画倒れのくずを踏み越え、「しにあん」はゆくよ!とありあえず、(月に一回・カフェ)神楽坂で、また会いましょう!しにあん企画にも、ぜひぜひ、来てね。



一つの間としてありつづけるために

豊島区

あんふぁんてに入会して、もうどれぐらいになるだろう。何がよくてここにいらるのだろう。そしてここはいつか何なんだろう、ととりとめも無くつい考えてしまう。

あんふぁんてはその名前の「あんふぁんて」(子どもを産む、作り出す、創造する)という意味と趣意書に賛同するという以外には、定まった形がない。だから、会員の数だけ様々な形を持っているところ。その状況でこの30年、会則もなく、その時々会員の興味とエネルギーで会報を繋ぎ、社会に声を伝えてくる事ができたのは、その時々を中心とする人が一人倍エネルギーを出してきた事によるだろうと思う。

そういった存在の人がいない状況で、ただ、会員の数だけあんふぁんてがあるという事は、エネルギーが分散していくことだろうと思う。団体としてとか、維持とか考えると形をどう捉えたらいいのかという事は、必要な事だけれど、それを、定めないのがあんふぁんてなのかと思う。そこはつきりしない感覚は、以前あてもなく一人インドを彷徨った時の状況に似ている様な気がする。これといって具体的な目的もなく、口実程度の理由で何となく行ってみたいを現実にしただけの旅は、酷くエネルギーを費やした事は確かだった。今あの旅を振り返って思う事は、行動には具体的な目標があったほうが動き易いし、達成感を味わう事ができる、ということだ。とは言え、あんふぁんては私にとって居心地はいい。会として何かしなければならぬ

今までの積み重ねの上に新しい何かが生まれたら...

世田谷区

会員になって二度目の交流会参加でした。今回はあんふぁんて存続についての話し合いでしたので、今まで会報を読んだだけの私としては、少し肩身が狭い思いがありました。自己紹介の時に会との関わり方を聞いていたら、心の拠り所だったという人が何人かいて、30年間の重みを改めて感じさせられました。しかし、今までの様に定期的に会報を出すには人材やエネルギーが足りないのでは、会のかたちも変化せざるをえないと思います。今迄培ってきた人脈や情報を大切にしたい。幾代さんの所をお借りして、サロンの様に集まって好きな事を話して、そこから何か新しい事が生まれたらいいなあと思います。私もこれから親の介護や自分の老後の事など、色々な事があると思いますので、会員の方々から教えて頂けたら心強いです。これからもどうぞ宜しくお願いします。



とか具体的に無くても、今は良いかと思う。私にとっては、自分の考えやこれが好きだの嫌いだのと自分の感じたこと、考えたことを言う事はごく自然なことであり、当たり前だと思っているが、一般社会はどうも違うようだ。日常の各シーンで、反論や注意を受けるようなことはまず無いが、空気が違うと感じる事はよくある。あとで、もしかしたらこういう言い方は、一般的ではなかったのかもしれないとよく反省してしまいが、あんふぁんてではそう言う心配は無い。そこが一番の魅力なのだろうと思う。そう言う場合は貴重だし、あり続けて欲しいと思う。他人事のように願うだけであんふぁんての存在は危ういだろうと思うので、少しでも何かはしようと思う。(何ができる訳ではないが...)事務局が、支えてくれていたあんふぁんてだったけれど、これからはそれ無しで、一つの間としてあり続けていけるために、微力ながらできる事をやり、考え続けていきたいと思っている。



あんふぁんてが好き

朝霞市

会員交流会の日は、午後からどうしても抜けられない用事があり、残念ながらお昼に退室した。でも、普段会えない会員の方々に会いに来て嬉しかった。今後もこのように顔を合わせる事は出来るのだろうか？

あんふぁんてってすごい

松戸市

夏の交流会には少し遅れた。会議室の扉を開けると、中はいっぱい熱気にあふれていた。「去年の交流会とは違う。「あんふぁんて」のことを、こんなにも大切に思っている」と感じた。

れど、222名も個性的な会員がいることは「すごい」ことなのだと思う。これからも、なんらかの形で「つながり」を大切にしていけたらいいな。新しい場もできたらいいな。「土曜サロン」はうれしい。

「来期案アンケート」とともに 寄せられたお便りから」

解散、そして再生へ

大田区

ごぶさたしてします。25日、参加しようと思っていたのですが、仕事の都合で行けそうにないので、意見だけでも届けたいと思います。ほとんど今では会報を読むくらいしかしていませんが、私にとってあんふぁんてが非常に大切な会であることは、今も変わりません。しかし、この会においては、世代交代は行なわれなかったし、もう「育児」世代は中心メンバーにいませんよ？よって私は、子どもの預け合いなどを行なうための保険がある、今までの育児サークル的な「あんふぁんて」はもう解散したほうがいいと思います。

ただし、これまでの人脈、せっかく生み出し培ってきた「話せる女たち」のネットワークを、ただ解散してしまうのはあまりにもったいない。なので、これからは（世代でくくった中心メンバーたちの）今後の関心事である、親の介護や、自分自身の老後を互いにサポートしあう会として再生したらどうでしょうか？



今後のこと、思いつくまま書いてみました

匿名希望

いつもありがとうございます。結局は（会報を）「読むだけの会員」になってしまいました。子ども2人が小学校に上がる前には、それでも平日あんふぁんてに出たり、切手貼りに1回お伺いしたような。特集の時に、1回参加させてもらったりもしました。

「あんふぁんて」は、私にとってはまわりのお母さんたちと違う考えと出合える場だったので、少々ショックだったのは、娘が小学校の時、不登校について投稿した時のことです。私はあまり批判的に書くのはどうかと思ひ、抑えた調子で書きました。それで正解でした。学校関係の方が読んでいたのです。感情にまかせ、批判を寄せることのできるミニコミ誌って考えてはいけないのです。

今、パソコンのホームページで好きなように批判を展開したり、欲求不満のはけ口にしつらよだと思ひます。印刷物よりたちが悪い

です。すぐ消したり、コピーしたりでき、配信できちゃいますから。

でも、若いお母さんたちを中心に活動していくなら、ホームページが利用されやすいですね。広告を載せたりして、多少の資金源にはなるでしょう。でも、もともとの「あんふぁんて」の趣旨からすると、どうでしょうか。中学校で私より10才以上年下のお母さんたちと一緒に仕事をしてますが、世代の違いというのはいやほやありますね。ましてや、20代のお母さんたちだと、首をかしげるばかりでしょう。若い人が全部という訳ではありませんが、今、家庭が「しつけ」を放棄しているの、子どもの預け合いは大変むずかしいのではないのでしょうか。

定期的な冊子の発行や保険代は、今の状況から考えて止めていいのではないのでしょうか。逆に、「しつけ」のできるプロが「有料」で子どもを預かり、育成を図る方が良くも思ひます。預け合いって言っても、実際は「子どもをみられる人が子どもたちをみて」他のお母さんはおしやべりに興じ、放つたらかしらって場合、結構あるようですよ。今までの人のネットワークは、生きていくのにはないでしょうか。お茶のみ会や、ちょっとしたイベントでまたつながって、もしかしたら新しいイベント立ちあげたり、何かやっていけるかも。

「あんふぁんて」のホームページで、本を売り、イベントを企画し参加者を募る。掲示板やおしやべり、仲間あつめなどなど。では、パソコンを持っていない人は...? どーしましよ。

「元事務局スタッフから」

府中市

18年前私が事務局専従スタッフになったのは、下の子を保育園に預けることができた。毎日事務局に通うのが可能になったから。スタッフになるのも、あんふぁんての活動に参加するための一つの形だと思つたからです。事務局は、会員皆のエネルギーや情報の集まる所でした。本音で話せる仲間が欲しい、子連れで集まれる場所がない、人まかせのお産はいや、仕事がしたい、夫との関係を変えたい...各地の会員から寄せられるいろいろな気持ちをすくいあげ、つなげることで、具体的な活動が次々生まれていきました。

私自身の子育てや地域での預け合い・グループ作りや保育の経験も、少しは誰かの役に立てたかもしれせん。そしてなによりも、私自身が多くの会員や子どもたちと出会って沢山の刺激を受け、元気をもらえました。

でも最近では、会員数が減るだけでなく、会員からの発信がとて少なくなくなりました。例えば、行政の子育て支援が有効に機能しているのか、家庭内での暴力の実態はどうなのかなど気になつても、生の声が聞こえせん。気が付いたら、事務局は子育てや女性が生き残る現場からとて遠い所になつてしまいました。義母の介護で事務局に通えなくなつたこともありましたが、それ以前に限界を感じていたので、今回事務局専従を退きました。今後のあんふぁんて? 皆さん次第です。

30周年スペシャル 「あんふぁんて私の場合」

生保十大道芸&ホームヘルパーな日々

練馬区

いくつになっても生活は楽にならない。あんふぁんてと付き合ってもうじき30年。生命保険の仕事をやって21年。大道芸をやり始めて19年。もう少しなるとか言っている筈だったんだけど、益々生活は苦しくなるばかり。息子達(30才、28才)は大分前に巣立って、不安定な役者稼業の夫と、不安定な生保営業の私、たまにしか入らない大道芸の仕事。求人広告に目をやれば、ホームヘルパーが時給がよさそう。空いた時間にやれば生活費の足しになる。早速ホームヘルパー2級講座を受ける。日曜コースで3ヶ月、やっと終了。学費は9万円余り。受講生は多いようだが、実際に仕事に入る人は少ないようだ。これは教える側が丸儲けのような気がする。一つのヘルパーステーションに登録したが、たまにしか入らない仕事を持つだけ。一見時給がよさそうだが、均せばどうってことはない。どの業界も一番底辺は、儲からない事になっている。

という訳で日々の暮らしに追われて、あんふぁんては斜め読み(ゴメン)。気が付けば存続の危機だ?でも、どうしていいかわ

からないし、どうすることもできない。たまに、この様な近況報告をするぐらい。(本当にゴメン)さて、あすは、ホームヘルパーの仕事の第1日目だ。

さて、そのヘルパーの仕事だが、月の始めの火土日の午後1時から4時まで。84才の女性。月始めの1週間は、一人で都宮アパートの自宅で過ごし、後は離れた所に住んでいる娘の家で過ごすのだそう。多少痴呆がある程度で、体は健康。娘さんの依頼で、その一人暮らしの間、掃除とか、みそ汁作り、御飯炊き、おかず(納豆)の用意、風呂を沸かして、自分一人を入れるそうなので、時々外からの声かけ、風呂から出たら残り湯でトイレと風呂を洗う、という仕事内容。

最初の日は、ヘルパーステーションの人に同行してもらって行ったのだが、利用者(84才女性)は、それ程痴呆という感じでもなく、トイレも自分で行かれるし、普通のおばあさんという感じで安心。ただトイレの汚さに唾然。風呂も他所のガス風呂の沸かし方はよく分からなくて悪戦苦闘。なんとか仕事を終えて帰ったが、2日後に訪問するまで利用者は無事でいるかちょっと心配。

そして、2日後に訪問。利用者は元気でひと安心。トイレブラシで便器をこすってみて、びっくりも落ちない。その日も無事に終えた。また2日後に行く時、もうそろそろ飽きてきた。いったい何しに行くの。13000円×3時間=39000円稼ぎにこの雨の中行くのかよ(その日は台風だった)。やっぱり割

に合わないこの仕事。でも、スーパーのパートよりいいか。

その日も無事終わったが、その後、ずーっと仕事来ない。よし、もう1カ所登録しよう。生保の会社と同じフロアにあるニチイ学館のアイリスケアセンターのドアをたたいた。(実は勉強したのもこのニチイ学館だったのだ。生保の雇用保険から学費の4割は戻ってきた)そこでまず釘をさされた。みんな稼ごうと思ってるけれど、そんなに稼げるものでもなく、きつい仕事で、けっこう辞めて行く人が多い。とにかく私は、金が欲しいので申し込んだ。2日間研修があるという。また、生保の会社休まなくちゃいけない。9000円位かかるといふ。ええいままよ、組織の大きい所は、いろいろ勿体ぶるもの。先に仕事をした小さなヘルパーステーションは、そんなものいらなかったのに。

さて、一番やりたい大道芸。10月15・16・17日、上野でヘブンアーティストTOKYOというのがある。出ました。15日は5000円の出演料と12500円の投げ銭、16日は10000円の出演料と13700円の投げ銭、ヘルパーよりいいや。17日は、待ちに待った地方の仕事があつて山形県へ。40000円也。あーあ、こういった仕事がコンスタントにあればいいのに。年に数える程だもんな。いろんなプロダクションにプロフィールを送って見たが、まあ、あまり期待しないで待てよう。本当は期待して居るんだけど。54才のおばさん。生活と悪戦苦闘しながら、私は諦めない、ゾ!

託児から託老へ

仙台市

私が、あんふぁんてに入会したのは20年位前のこと。転勤で、仙台の農村部で暮らすことになった私は、子育ての大変さ、息苦しさを感じた。それまで暮らしていた松戸の自宅では、核家族同士、協力して、支えあって子育てをしていた。

それが、転地では、「家」を単位とした子育てが行なわれていた。三世代同居だったり近くに親類がいたりして、「家」の中で、助けあっていた。他の家の子を預かるとか、他人に預けるとかいう発想さえもなかった。そのせいか、新設の保育所もガラ空きだった。だから、核家族でも働くことは可能だった。近くに大きな工場があり、働く場もあった。

首都圏のベッタタウンでは、日中、公園でサラリーマンの妻たちが子どもを遊ばせている姿は珍しいものではなかったが、こちらでは、仕事にも行かず、畑仕事もせず、年寄りと同じ子守りをしている若い母親など、ほとんど見当たらない。それまで、当り前のように感じていたいろいろなことが、揺さぶられる思いだった。自分自身の価値が、とても低く感じられ、自信もなくなりました。

また、自宅では日常的だった「子どもを預ける」という行為が、実は、様々なことに裏打ちされていたということも気づいた。その一番大きな裏づけは、大人同士の信頼感であると思う。自宅では、年令も、社会的立場も、生活も価値観も、そう違わない6世帯だったから、深く考えることもなく、預けあうことがスムーズにできていたのだろう。預け

あえない立場に立ってみると、それまで、何気なく行なっていた「預けあい」が、子育ての孤独感をどんなに救っていたことか実感した。

そんなとき、新聞で、あんふぁんての紹介記事の中に「預けあい」という語をみつけ、入会しようと思った。会報を読んでみると、様々なことに疑問やこだわりを感じている女性たちの気もちが書いてあった。飾らないことばで本音が書いてある分、そのときの私では受けとめきれないことも多く、素直に自分の思いを語れる人たちがまぶしく感じ、「読むだけ」会員を続けることさえ、しんどく思ったこともあった。

でも、読み続けているうちに「預けあい」だけにこだわっていた私は、預けてどう過ごすかというところに興味があり、子育て中であつても、できることはたくさんあるというふうな考えられるようになってきた。そして、託児付講座などにも積極的に参加するようになり、あんふぁんての仲間と自主保育グループを作った活動するようになった。仙台の農村だからこその自然の中での野外保育は、今でも楽しく思い出す。

その子どもたちも20才を超えてしまった。育児の環境も私の生活も大きく変わった。それでも私は、「預ける」ということにはこだわっている。それは、幼い子どもだけのことでない。松戸でひとり暮らししている次男は、小学校時代からの友だちの親御さんに大変世話になっていて、直接、預かっていただいているわけではないけれど、信頼できる親代わりがいてくれることは、本当に有難い。何か

あつたときに力になってくれるおじちゃんやおばちゃんがいるということは、本人にとっても心強いと思う。

今、気になっているのは老親を預けるといふこと。現在は、私の親も、夫の親も健在である。私たちの親世代は、「家」で面倒をみるのは当り前という世代である。デイ・サービスを嫌がる親に、閉口している友人が複数いる。例え、一時的であつても「預けられる」といふことをマイナスに考えているのだそう。

託児も託老も、それを支える社会通念、人間関係、環境、費用など、問題の根っこは、共通している。ひとりで抱えこまないことで、子育てが楽になったことは、経験済みである。あんふぁんてで培った問題意識、生活の場からの発想、仲間づくり、情報交換など、これからはフルに活用して自分の将来のためにも楽な介護を考えていきたい。

「私はこうしたい」と願い、行動を起こし、実現させてきた女性たちに出会えたあんふぁんては、私のエネルギーの源である。



もない。マンションの部屋で「密室育児」をしてきた。「もっと育児を楽しんで」という夫の言葉は逆に私を追い詰めていた。わらにでもする思いで会に連絡を取った。

届けられた「ひとり子育てしないで」には私と同じように育児のつらさがいくつもつづられ、時には涙ぐみながら、子どもの泣き声や私を呼ぶ声を耳から追いやるようにむさぼり読んだのを覚えている。私だけじゃなかったという事は、私に本当に大きな力をくれた。私の努力が足りないから育児が楽しくないのだという自分を責めることから解放された。「だったら育児のつらさはどこから来るのだろうか？」と新たな問題の答えを見つめるために行動を始めることにもつながっていた。

子どもとの関わりは、自分の余裕のあるとき、仕事から解放され自分のリラクスのためにするとってはばからない。一方、二十四時間子どもと離れることなく、きちんと育てなければとキリキリしている私はそんな夫に腹を立て、名古屋に来てから夫との関係は悪化の一途をたどっていった。フェミニズムとの出会いもそれに拍車をかけた。

そんな夫との戦いぶりをよく投稿したっけ。子どもを持ったことで浮上したのは夫婦関係の問題だった。「やっぱりおかしい」。夫に伝えてもわかってもらえない思いを書くことで、それを誰かが読んでくれるという自分で自分を支えていた。直接返事がなくても、不思議と「そうだよねえ」と言ってもらえている感覚があった。

名古屋へ来て、友人ができたのもあんふぁ



中野区

ご無沙汰して、その節はお世話になりました。もうずいっと読むだけ会員も怪しくなってきた。会費納入の際にはどうしたものかと考え、「ま、いいか」と今日まで来ました。

そもそもあんふぁんてと出会ったのは阿佐ヶ谷の木風舎で買った「お産サイドブック」だったと思います。子育てに関しては何があっても元幼稚園教諭だった事もあってあまり悩まなかったけど、社会との隔絶感というのはいささか感じて、幼稚園入園前のごにも居場所がない感じのころにあんふぁんてにはまって、「つながり方」を学んだような気がします。

今思えば、自分にとってその頃がいろいろな意味で探索期だったのかなと思います。あるがままで背中を押してくれた川崎さん。託児状態で子どもを見てくれ私をお散歩させてくれ靴下まで貸してくれた(返してない)井上さん、幾代さん宅でお会いできた悩みながらも自分を生きているステキな人々、ありがとうございました。なんかこう書く、「はい、さようなら」になってしまふなあ。

やはり大きかったのは子どもが幼稚園に入って世界が広がった事だと思えます。誰も知

らない盛岡という地で「盛岡あんふぁんて」をつくり子育て仲間を作ったこと、幼稚園の役員から小学校のPTA会長まで、失敗もあつたけど少しづつ「今のままで、私は私でいいんだよ」と自信をつけていった。環境。中野親子劇場とのかわり(ココの会員数がなげかあんふぁんてと同じ推移で同じ状態だ)で地域に出来たつながり、趣味の世界の充実。習いに行き始めたパッチワークは資格が取れ大作も作れるようになったし、細々続いていた独身の頃からの山の会はここに来て復活してきた。

そして最大の変化は、仕事に復帰したことだ。お金の為でなく自分のために仕事があった。長年の課題が達成でき、充実していること。人間、満足しちゃったら終わりだよとも思うけど。

というような近況で、自分にとって「密室育児」から完全に脱出してしま、感謝はしているけど「卒業」的気分かな。もちろん平和の事とか介護とか女性の生き方とか、育児だけではないことはわかっているのだけど、来期案アンケートの「解散」に○をつけたのは私です。もっと社会的運動体だとイメージしていたと書いたのも私です。ただ、人によって思い入れと状況は違うのだから、簡単に解散というわけにもいかないだろう。しかし、かくたるビジョンもなくならならというの、どうかと(エラソウダケド)思います。

あんふぁんては何かをしてくれる会ではなく、自分から参加して初めてあんふぁんてなわけであつて、なんでも外注傾向にある若いお母さんにとって、そこが「違うかな」と感

らな盛岡という地で「盛岡あんふぁんて」をつくり子育て仲間を作ったこと、幼稚園の役員から小学校のPTA会長まで、失敗もあつたけど少しづつ「今のままで、私は私でいいんだよ」と自信をつけていった。環境。中野親子劇場とのかわり(ココの会員数がなげかあんふぁんてと同じ推移で同じ状態だ)で地域に出来たつながり、趣味の世界の充実。習いに行き始めたパッチワークは資格が取れ大作も作れるようになったし、細々続いていた独身の頃からの山の会はここに来て復活してきた。

そして最大の変化は、仕事に復帰したことだ。お金の為でなく自分のために仕事があった。長年の課題が達成でき、充実していること。人間、満足しちゃったら終わりだよとも思うけど。

というような近況で、自分にとって「密室育児」から完全に脱出してしま、感謝はしているけど「卒業」的気分かな。もちろん平和の事とか介護とか女性の生き方とか、育児だけではないことはわかっているのだけど、来期案アンケートの「解散」に○をつけたのは私です。もっと社会的運動体だとイメージしていたと書いたのも私です。ただ、人によって思い入れと状況は違うのだから、簡単に解散というわけにもいかないだろう。しかし、かくたるビジョンもなくならならというの、どうかと(エラソウダケド)思います。

あんふぁんては何かをしてくれる会ではなく、自分から参加して初めてあんふぁんてなわけであつて、なんでも外注傾向にある若いお母さんにとって、そこが「違うかな」と感

んてを通じてのことだった。その友人たちとよく話すのが「あんふぁんての会員だと、初対面でも初めて会った気がしない」ということ。これは会報を通じて自分のことを知ってもらえているということもあるのかもしれない。「妻」とか「母」とか、役割だけで生きることになんとも違和感を持っていたり、生きにくさを抱えていたり、もっと社会のことを考えようと思ったり、決して多数派ではないことであつて、かなり変わっているのだと思う(名古屋のメンバー、ごめん!)。でも私はその中にいるとホッとできるのである。

今だから言えることだが、子どもに対して、もっといい加減でよかったのになと思う。やっぱり子どもの「出来・不出来」私の評価だったのかな。それ以外に私を評価してもらえない場がなかったから。とは言うものの、今でも子どもの成績表を目の前にすると、「成績だけが評価じゃない」「子どもと親は別物」という建前は吹っ飛んで、愕然とし、「もう少し何とかならんのか?」という言葉を飲み込むのが大変だ。まあ、親なんてそんなもんだろうと考えることができる。が、進歩かな。

やがて、子どもは大きくなり、私自身もボランティアから始めた相談員の仕事で給料をもらえるようになった。入会当時は6歳だった長女も高校生、夫は「今まで関わってこなかったから!」などと言って、突然長女のお弁当作りを始め、周囲に自慢げに話している(保育園の送り迎えと同じで、母親がやれば当然なのに、父親がするとえらくほめられるのと同じ現象がそこでも起きる。夫はそれで

じるところなのでないでしようか。ただの情報だけなら、あんふぁんての仕事でなくていいとも思います。

とりあえず、一年分会費を納めます。親子劇場もそうなんだけど、気持ち的には卒業なんだけど深く卒業できないのは、人と人のつながり、ステキな人との出会いの思い出なんだろうなあと思います。うまく言葉にはできないけど、そのへんに活路があるような気がします。

P・S・ 会報296号の人付き合いがプレッシャーのH・Mさん、読んで私の事かと思いましたが、プレッシャーでもなんでも「現状を変えたい」と行動すれば、道は開かれるものです。お互いががんばりましょう。

大切な同志

名古屋市

私が入会したのは、多分94年(一番古い会報が94年)。当時、長女が6歳、次女が3歳で、結婚して関東で4年を過ごし、夫の実家のある名古屋に引っ越して少したった年だった。私自身は川崎の出身で、当然周りに友人もいない。周囲に子ども自体が少なく、公園

じるところなのでないでしようか。ただの情報だけなら、あんふぁんての仕事でなくていいとも思います。

とりあえず、一年分会費を納めます。親子劇場もそうなんだけど、気持ち的には卒業なんだけど深く卒業できないのは、人と人のつながり、ステキな人との出会いの思い出なんだろうなあと思います。うまく言葉にはできないけど、そのへんに活路があるような気がします。

P・S・ 会報296号の人付き合いがプレッシャーのH・Mさん、読んで私の事かと思いましたが、プレッシャーでもなんでも「現状を変えたい」と行動すれば、道は開かれるものです。お互いががんばりましょう。

大切な同志

名古屋市

私が入会したのは、多分94年(一番古い会報が94年)。当時、長女が6歳、次女が3歳で、結婚して関東で4年を過ごし、夫の実家のある名古屋に引っ越して少したった年だった。私自身は川崎の出身で、当然周りに友人もいない。周囲に子ども自体が少なく、公園



いい気分なのだからまあ、許そうか。夫との関係も、夫の「妻はこうすべき」と私の「夫にはこうあってほしい」という綱引きも私の手を放し、夫もあきらめた(ようである)ところから新たな局面を迎えている。

そして、あんふぁんてとの関係も変化してきた。毎回の会報の編集や企画の大変さを知っているけど、特集の企画には及び腰。投稿もほとんど無沙汰が続いている。でも、私はあんふぁんてを手放さない。一番つらいときに力をくれ、支えてもらい、友人との出会いの機会をくれた。私は結構、義理堅い。社会や政治のことも含めて語れる子育てサークルや会報は、決して他の追随を許さない(というか、他にはほとんどない)。「あんふぁんてあってこそ今の私がある」というのは大げさかもしれないが、あんふぁんてはここまでできた私といつも一緒に歩いてきてくれた、大切な同志である。

いままでも、ありがとう。そしてこれからもどうぞよろしく。

少し上の子、何歳も上の子、幼稚園や学校のこと。また食生活や環境や平和、行政や政治や世界のこと、などなど。赤ん坊の時からずっと聞くことが出来て、すぐに役立つものもあれば、後々支えになってくれるものもあります。当然、いろんな子やいろんな人がいることは嫌でもわかります。

娘が1歳半の頃、父が胃切除で入院し、パニックだった母のフォローに通う内、緊急保育ママさんに1ヶ月お世話になりました。50代くらいの方でしたが、冬でも公園へ連れて行ったり、昼寝から目覚めた時に必ず見える所で家事をしたり、家族みなさんに可愛がって頂きました。

私って子育てに向いてない！昼間だけでも向いている人にもみてもらおうと、保育園を申請。ちょうど新年度の入園が確定した直後で大変でした。最後にはケースワーカーに電話で啖呵を切って、3月末日の園長面接にこぎつけたのも、面接の傾向と対策を練りに地元選挙事務所を訪ねたのも、あんふぁんてで培った強さでしょう。

娘が小4の頃、疎鬱の高じた私は、母と夫に腹をたてて夜遅く出かけ、そのまま2ヶ月近く家出しました。自分あての郵便物の転送先を頼んだのは、ちょうど長めの正月休暇に入る会員の仕事場でした。休暇で居ないから万が一母が押しかけても平気だろうと。何人もが、私の愚痴や相談にものってくれました。娘が産まれた頃、既に登校拒否という言葉が使われていたと思います。会員から聞くこともありました。そして、小学校後半から欠席が増えてゆき、中学では最初の中間試験ま

今までとはまったく違う体力勝負の現場仕事、「調理」の仕事も始めました。いままでも仕事は「自分であること」を満たすための大事なものの「だ」だけれど、今は「自分と家族を育むための営み」になりました。それがすがすがしいものだと実感できるまでに、少し時間がかかりました。

この秋私は40才になります。20年続けた仕事をすっかり卒業し、このあと20年は、親と同居して親の老いに寄り添いながら、子どもたちを社会に送り出すことに専念するつもりです。

そんな決意をして、借りていた市民農園も週に一度の水泳教室も、子ども劇場も、そして「あんふぁんて」もやめることにしました。あまり深刻なことではありません。私は10年ごとくらいに自分の周辺を整理する習性があるようです。40才。「不惑」とまではいかなければ、ようやく私にも「覚悟」のようなものが生まれてきたようです。

いまでも思い出すのが、あんふぁんてに入ってから舞い込んだ一枚のはがきです。「絵本の店「ピッピー」でお話し会があります。赤ちゃんを連れてぜひどうぞ」。私もいつかそんなことを若いお母さんたちにさりげなく伝える人になりたいな。あんふぁんてではそんな素敵な女性とたくさん出会いました。ほんとうにありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。

で、ぶつかりと行かなくなりました。「学校へ行かなくてもいい」と言い切るだけの確信がなかった私でした。毎朝いくか休むかを担任に電話しなければならなかったの、イライラして行けとか休めとか言った日も多かったです。担任や同級生が訪ねて来るとも負担でした。夫は団塊の世代の直後に生まれ、公立の小中高から大学受験してサラリーマンになったので、なかなか登校拒否をうけつけられませんでした。毎日のように叱る事が多く、毎日泣いていたと娘が書いたものを見たことがあります。

本人が割り切れないことや、何かやりたいたいことも見つからないことが、何より気の毒なもの、かなり太っていた娘がウッソリしていることは、受け止める余裕もなく、いつ起きて、いつ食べるか、何が食べたいか、なんて待機していたら、娘を恨みがましく思ってしまう、と切り捨て。幸い小さい頃から料理好きな子なので、きちんとした食事は作る気になれなくても、何とか食べられるはずと、それまで通り出かける事の多い私でした。週末は船に泊りがけで遊びに行ってしまう私を、太っ腹な飲み仲間、近視眼的な親よりマシと受け止めてくれました。

中3になって、近くには昼間定時制高校や通信教育の付属高校もありましたが、夫の知っていた専修学校を受けることにしました。12月から3月末まで3/4回の募集があるので、仮に入学金が無駄になっても、12月から受け皿が決まっている方が、少しは落ち着いて卒業までの時期を過ごせるだろうと。

幸い、入学式以降、まずまずの様子で通い



10年ごとに自分を整理

小平市 小田島

あんふぁんてが存続の危機？ここ数年同じようなことが言われているけれど、なんとなく今回は現実感をもって受け止めています。あんふぁんてがなくなるその日まで命をともにしたい？と漠然と思っていた私ですが、今回、あんふぁんてを離れることにしました。

息子（今高1）が生まれて3ヶ月くらいはとき偶然出会ったあんふぁんては、どんなときも私の心にもありました。みんなで子どもを前だっことして、あちこち出かけた時代。私はいったい何を求めていたのかな？これからの子どもをどう育てようか、必死で模索していたのでしよう。その時もらった「自分も子どもも大事にしたい」という気持ちは、今も変わりません。

娘（小6）が生まれた頃にやった「子連れコンサート」のことも、思い出します。母になって4年そこそこの自分でしたが、初めての子を育てているお母さんがもつ閉塞感を、少しでもやわらげられたらと思いました。夫婦で力を合わせて子どもを育てたいとも願っていましたが、残念ながら、30才を前に息子が年長、娘が2才のときに別れることになりました。でも、ホント結婚はしてよかった。

息子が1才半の時「編集」の仕事も再開しました。昼夜の区別ない仕事ですが、好きな仕事ですから苦痛はありませんでした。中断は少しありましたが、20才のときから20年。あきっぱい私にしては、がんばったかな。去年からは本業だけでは食べていけなくなり、

今までとはまったく違う体力勝負の現場仕事、「調理」の仕事も始めました。いままでも仕事は「自分であること」を満たすための大事なものの「だ」だけれど、今は「自分と家族を育むための営み」になりました。それがすがすがしいものだと実感できるまでに、少し時間がかかりました。

この秋私は40才になります。20年続けた仕事をすっかり卒業し、このあと20年は、親と同居して親の老いに寄り添いながら、子どもたちを社会に送り出すことに専念するつもりです。

そんな決意をして、借りていた市民農園も週に一度の水泳教室も、子ども劇場も、そして「あんふぁんて」もやめることにしました。あまり深刻なことではありません。私は10年ごとくらいに自分の周辺を整理する習性があるようです。40才。「不惑」とまではいかなければ、ようやく私にも「覚悟」のようなものが生まれてきたようです。

いまでも思い出すのが、あんふぁんてに入ってから舞い込んだ一枚のはがきです。「絵本の店「ピッピー」でお話し会があります。赤ちゃんを連れてぜひどうぞ」。私もいつかそんなことを若いお母さんたちにさりげなく伝える人になりたいな。あんふぁんてではそんな素敵な女性とたくさん出会いました。ほんとうにありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。



私が入会したのは、19歳の娘が生まれて3ヶ月ごろでした。最初の「お産サイドブック」が出たとの新聞記事を読んで、妊娠ライフ後半を愉しんだ自分も、編集に関わりたかったな！と思ったものです。

杉並の事務局は、のどかな古い木造。住人（事務局）と集まる人たちは元気で過激でしたが。あんふぁんてで会う人たちは、ホンネと生きた情報と元気を交し合う仲間でした。あんふぁんてでは、元気と自分で考えることを受け取って、自分の場に帰って行ける、自分の場でも話したり行動したり出来るようになる感じでした。

もう一つ大きいのは、子どもの年齢も親業年数も縦割りなので、自分の子と違う年齢の子の話を聞けることです。数ヶ月年上の子、



【繰越金 (円)】	
[A] 2002年度より	431,094
Ⅰ 現金	2,063
Ⅱ 郵便口座	29,031
Ⅲ 定期貯金	400,000
[B] 2003年度繰収支	367,597
[C] 2004年度へ	798,691
Ⅳ 現金	208,850
Ⅴ 郵便口座	589,841
Ⅵ 定期貯金	0

【予算】(会員数150名想定)		
(入の部)	月額	年額
(ア) 参加費	75,000	900,000
(イ) 雑収入	750	9,000
合計	75,750	909,000
(出の部)		
(ウ) 保険料	10,000	120,000
(エ) 事務局家賃	5,000	60,000
(オ) 事務通信費	10,000	120,000
(カ) スタッフ費	19,000	228,000
(キ) 事務人件費	0	0
(ク) 事務交通費	0	0
(ケ) 事務印刷費	0	0
(コ) 事務用品費	0	0
(サ) 資料代	0	0
(シ) 企画経費	0	0
(ス) 会報印刷費	25,000	300,000
(セ) 会報郵送費	6,750	81,000
合計	75,750	909,000

円に。しかも4月からは川崎さんが介護のため通えなくなったこともあり、ゼロに。その代わり、他のスタッフと同様の扱いで1回1000円のスタッフ費として精算し、⑬のようにになりました。

⑬の事務交通費も、3月までの分です。

総収支としては、会報の隔月化と事務局のリスト化によって、参加費の減少にもかかわらず、367597円の黒字となりました。繰越金の欄を見てもらうとわかるように、すでに定額貯金はとらしくずしましたが、すでに9月末の段階で、のべ692ヶ月分346000円の会費は前納され、預かり金となっていますので、実質的には総収入の黒字分がそのまま繰り越し金となった形です。

【これからに向けて】

予算は会員数9月末171名ですので、150名で組んでみました。

(ウ)(エ)(オ)はどうしてもかかる経費、(キ)(ク)(ケ)(コ)(サ)(シ)はゼロに。(ス)(セ)は例えば現在と同様の形で隔月に出すとしてですが、(問題)は、誰がやるのかという事です。(カ)はスタッフとして何らかの形で動いてくれる時に、今までと同様1回1000円を(川崎さん)だけは1回2000円)支払うことができるでしょう。

すでに書いたように、年間予算の909000円のうちのほとんどは繰り越し金で確保されていますが、300号までの経費も必要です。特に300号の30周年スペシャル特

集号は頁数を16頁と限らずに、原稿依頼の声をかけた方の全部を載せたいと考えています。その分の経費増は特別カンパを募ろうと計画です。ですので、301号から発行していくことは金銭的には可能です。

と、ここまで書いてきて再び、問題は誰がどんな形で仕事や編集を担うかにかかっています。16頁で閑場さんが提案しているように声を出していかないと、また、アンケートに答えたり、編集スタッフに応募したり、連絡をしてみたりと動かないと、あんふぁんては自然消滅していくことになりそうです。

30年前に新聞の投稿欄から始まった『あんふぁんて』『生み出す・創り出す』をモットーに来たんだから、新しい31年目も創り出せはす！サアー!!知恵を出し合ひましょう。

(古知)



【2003. 10. 1~2004. 9. 30会計報告】

<入の部>	【今年度金額 (円)】	【250名想定予算金額】
①参加費	1,194,770	1,500,000
②雑収入	424,666	216,000
③企画収入	4,200	60,000
合計	1,623,636	1,776,000
<出の部>		
④会報印刷費	313,700	300,000
⑤会報郵送費	127,000	180,000
⑥保険料	126,000	120,000
⑦事務局人件費	180,000	720,000
⑧事務局家賃	120,000	120,000
⑨事務通信費	111,070	60,000
⑩事務印刷費	2,170	12,000
⑪事務用品費	8,459	12,000
⑫資料代	9,000	12,000
⑬事務交通費	70,000	156,000
⑭企画経費	14,600	24,000
⑮スタッフ費	174,040	60,000
合計	1,256,039	1,776,000
総収支	367,597	

お金のこと

あんふぁんての

31年目はあるのか?

*ぜひとも昨年度、一昨年度の会計報告とも比較して読んでほしいのです。2003年12月5日発行の293号、2002年12月5日発行の284号をお手元に。

【2003年10月1日、2004年9月30日の会計報告についての説明】

①の参加費は、2003年9月末の会員数が269名でしたので、250名分で予算を組みましたが、実際は年60000円で割ってみると199名分。

②の雑収入の中には、資料代30351円、『お産サイドブックII』の本代14730円、『密室育児からの脱出』の本代30000円、『ひとり子育てしないで』の本代4800円その他に、定期貯金にしてあった今までの本制作時のカンパ分135000円や、定期貯金解約時の利息分141200円、個人カンパ94585円があります。

③の企画収入とは、イベントのことですが、今期は池袋でやっていたエポック10の『子育て広場トリアル』も低調で、参加費の収入はわずか4200円でした。それに対しての経費は④のように146000円で、つまり104000円の赤字だったというわけです。

④⑤の会報印刷費・会報郵送費は、今期からは16頁隔月発行となつての6号分です。

⑥の保険料は、例年通りの12万円の他に、2件の小さなケガの事故がありまして、免責額分の30000円を2件、あんふぁんてから支払っています。

⑦の事務局人件費は、井上・川崎の2名分の合計として月6万円の予算でしたが、交流会で(会報292号参照)事務局のリスト化、半減と決定したように、10月から月3万

あんふぁんてから

あんふぁんてへ



エネルギーのバランス

さいたま市

娘とイタリア旅行に行ってきた。彼女は大学3年生。私も仕事と彼氏で忙しくして...

今回の旅で、子離れの時期を痛感しました。私のエネルギーの配分バランスを変える時期なんです...

人間博物館

標本・奇人変人 その「一」 宇都宮市

こんにちは、です。会員番号は2424。年令は54才です。49才の時に左手...

「あんふぁんて」に入ってから約30年。まだ抜けられないでいます。「あんふぁんて」ではよく遊ばせてもらいました...

一級障害者の私は社会福祉法人で暮らしていますが、三度の食事は食べるだけです。食料品の買い物に行ったり、台所に立ったり...

時々、今いる施設の職員さんに助けをもらって、旅行も行っています。東京デイズニランドに行ったりは、ホテルに泊りました...

家父長制との戦い・私の場合①

新座市

ここ最近の、政治情勢やら一連の男女平等教育に対する攻撃は、なかなかすさまじい。あんふぁんての友人とも、そのことを話したい、伝えたいと思う。

子育ての中で私がずーっと抱えていた「理不尽な性の差別」、これをなくす戦いは、ほぼ私の人生が終わるまで続くだろうと思う。しかし、ここがあんふぁんてらしい？というか、個性というか、毎日が活動のどこやらのグループとは違い、そんなことを考えるのは三分の一くらいのもので、うっかり細木数字のTV番組なんぞを観て、なかなかやるねなんて思っ、おっと、やばいよ。「女は結婚して何ぼよ」なんて、妙に説得力あるしね。というわけで、ちまちました、日常のそれとない「ジェンダー・あれこれ」を。

◆その1 (60代〜70代のおじさんたち)

実は、私め、元英語塾のせんせというところもあり、ここ5年はしこしこ「英語の原書を読む」講座を週に一回。そう、地元の公民館で続けております。

そのメンバーたるや、50代女性3人、60代女性1人、70代男性3人、60代男性1人とまあ、ものすこい構成なのであります。私も、ここは英語の勉強と言いつつ、なるべく地を出さないようにしてました。

ところが、休憩のお茶の当番やら、部屋の準備など、女性が当たり前のようになっている。やっぱ、それとなく、徐々に廃止させました。で、なんと、その時最高齢

の男性がしみじみ言いました。

「私はずーっと、人間は男と女は全く違う生き物だと思っただけです。女は、私らよりずつと劣った生き物だ」と。

私もびっくり、むこうもびっくり。昨年がんで亡くなりました。もうちよつと、早く出会いたかったねと。彼は私と出会ってからは、なんと「北原みのり」さんの講座「女性講座・ジェンダーと性等」のたった一人の男性として参加してました。それなりに変わったのでした。

◆その2 (同年代のおばさん)

もう、私が60歳の人をおばさんと呼ぶ意味は何もないのですが、なぜか生活史、教育の差(差別意識も含め)を感じて、おばさん、そりゃないぜ...と言いたくなる。週に一日、生活クラブの「クラブ・ルーム」という所で、一日20食をめぐりにランチを作ります。メンバーは30代〜60代の女性。二人でシフトを組んでやります。

私といつも組むAさんは、息子夫婦と二世帯家族。自営業の妻。『渡る世間は鬼ばかり』と『思いつきテレビ』が仲良し番組。半年前かかって、夫婦は別居が可能ということや、離婚女性に対する偏見を彼女から取り除く作業。私の友人の女性議員に対するパッシングもあつたりしたんですが、今は、いろんな考えの人がいて面白いねというふうになった。

「緩やかな連帯」とか、「地面から湧き上がる運動」と活字では、わかるけど。では、毎日のあなたは？と聞きたい。そして、伝えたい。こんなこと、あんなこと、こんな人がいると。私は、私流にたたかえるかな？(続く)

見に埼玉県に行ってきました。今年の6月には、千葉県市川市の市民会館でジャンソンのコンサートを楽しみ、次の日には、日本橋の三越百貨店で買い物をしてきました。「あんふぁんて」の会員の方々は、ずいぶんお世話になりました。感謝感謝です。

その「一」のオマケ

宇都宮市

私は現在、氏をサポートしています。今年の6月には、氏が「あんふぁんて」の会員の方と市川巴里祭へ行く際に付き添いました。

その時の氏は、今まで見たことのない表情をしていました。今回行った巴里祭は、彼女が以前から強い希望をもって参加したいと話していたイベントだったので、彼女の幸せそうな表情を見ることができ、一緒に同じ時間を過ごせてよかったと思います。これからも、彼女が今後の人生を楽しめるよう、支援していきたいです。ありがとうございました。

事務局から

●次の30周年記念300号には、できるだけ多くの方の声を載せたいと思っています。投稿は大至急事務局まで。

●11月末の会員数は159名です。

スケジュールメモ

- 12月11日(土) 土曜サロン
12月20日(月) 編集ミーティング
1月17日(月) 編集ミーティング
1月8日(土) 土曜サロン
2月12日(土) 土曜サロン
2月14日(月) 2・3月合併号発送作業
*編集ミーティングと発送作業は10時半から事務局で。子連れ可、弁当持参。土曜サロンは6時から幾代宅で。どちらも参加希望者は事前に連絡を。

情報コーナー

★(資源としての卵・受精卵・胎児) ねらわれる女のからだ シンポジウム があります

自分の身体は自分のもの。「専門医学知識」とやりに負けるわけにはいかないでしょ。
12月12日(日) 午後1時〜5時 参加費あり
中野勤労福祉会館(中央線中野駅南口5分)
TEL 03-3380-6941
問合せ・あんふぁんて・どんな保育がほしい 古知まで

「あんふぁんて」終刊のお知らせ

あんふぁんてでは、2005年2・3月合併号(通算300号)30周年記念号をもって現在の形の会報を終刊とすることに決定しました。

4月以降はやる気のある人、やれる人がいれば、会報発行が可能です。紙面の大きさやページ数、文字(ワープロ)にするか手書きか、印刷方法、発送方法、発行時期など、すべて未定なので、「こんな会報を作りたい」と思う人は、ぜひ知恵を絞ってください。

★そんな訳で

31年目の会報の特集原稿募集!

新形式(?)の会報第1号に掲載予定の特集の原稿募集です。同封のアンケートに意見を寄せてください。テーマは

「お受験」は、子どもの夢を叶えるの?」

◆特集のためのアンケートにご協力を!

豊島区

「あんふぁんて」の皆さんは「まだ義務教育期にある子ども達の受験」というものを、どう考えていらっしゃるのでしょうか? 自身は、これまでは否定的でした。「親がレールを敷くのではなく、子ども自身が決める、その時を待っていたい」と考えていました。ですが、最近になっていっしょに子育てをしながら同じ思いを語り合っていた友人の

人が、子どもに「お受験」をさせる事を決めました。理由は、「子どもの方から受験をしたと言いついたから」というものです。

「子どもの夢を叶えてあげたい。親として」という彼女の気持ちに私も共感出来る所がありました。私たちは二人とも「子どもに強制はしたくない」という気持ちは同じなのです。でも、子ども自身がそう決めたのだらうら? 親として、どう応えてゆくべきでしょうか。

子どもの受験を経験してきた方、これから考えてゆきたい方、また御自身の受験体験等、ぜひアンケートにご記入ください。編集スタッフも募集中です。お待ちしております。

●あんふぁんては、会費のみで運営している会。会費の支払いは年2回4月と10月で、前納が原則です。会費が切れても本人から連絡がないと、退会や休会の措置はとれません。休・退会や転居の際は、会費切れの前月末までに事務局に連絡を。

あんふぁんてホームページアドレス <http://>

事務局までの地図

☆当会について詳細を知りたい場合、封書に〒・住所・氏名・☎を明記し、切手四百円分(なるべく少額切手)を送って下さい。入会希望の場合はなるべく会費六ヶ月分(三千元)以上まとめて、郵便局の振替口座に払い込んで下さい。

第299号 (隔月5日発行)
2004年12月5日発行
(1975年7月26日初刊発行)

あんふぁんて 12・1月合併号

発行人 /
発行所 / あんふぁんて出版部

電話 /
(☎平日12時~2時それ以外FAX)

定価 / 500円
振替口座 /
加入者名 / あんふぁんての会

©本誌掲載記事の無断転載を禁じます。